



地域未来牽引企業に選定

本社:〒523-8555 滋賀県近江八幡市北之庄町908 TEL(0748)32-5111(代) FAX(0748)32-3339 / 東京支店:〒107-0052 東京都港区赤坂9-1-7 TEL(03)5772-6073(代)

海外事業



インド JICA中小企業海外展開支援事業の調査でインドへ 2018.5.10～

インド

独立行政法人国際協力機構（JICA）が実施する2017年度第2回中小企業海外展開支援事業※に日吉の提案「インド国における遠隔監視システムを用いた生活排水処理施設の総合維持管理事業案件化調査」が採択されました。

今年5月から開始した本事業は4回の渡航調査を通じ、現地子会社と連携し、最新のICT・IOTを組み合わせた遠隔監視維持管理システム等の導入により、日本と同レベルの維持管理システムの構築を目指します。

※日本の中小企業がもつ製品・技術の開発途上国への適用可能性に係る調査・事業を通じ、中小企業の海外展開と途上国が抱える様々な課題の解決をめざすもので、今回63件(うち案件化33件)が採択されました。



ミャンマーのヤンゴンで開催されたJICA草の根技術協力事業に参加 2018.4.22～2018.4.27

ミャンマー

JICA草の根技術協力事業として大阪市が提案し採択を受けた「ミャンマー連邦共和国ヤンゴン市下水処理場管理・保全能力向上プロジェクト」がミャンマー連邦共和国ヤンゴン市で開催されました。ヤンゴン市中心部において、衛生的な生活環境を提供するとともに、公共用水域の環境が保全されるように、下水道施設の能力が最大限に発揮できる状態にすることを目標としています。

事業期間は2018年3月からおよそ2年間で、当社は主にヤンゴン市都市開発委員会の職員が管理する下水処理場の維持管理技術および水質検査技術の向上に協力します。



インド・ベトナムで開催された「平成29年度災害に強い環境インフラの海外展開に関する調査及びセミナー」に講師として参加 2018.2.22～2018.3.2

ベトナム

環境省主催、OECC（海外環境協力センター）協力の「平成29年度災害に強い環境インフラの海外展開に関する調査及びセミナー」が2月22日から3月2日までインド、ミャンマー、ベトナムで開催されました。環境省が進める「環境インフラ海外展開基本戦略」のなかで高度な環境インフラ技術として示された日本の浄化槽のさらなる普及展開を目的として、現地政府や自治体の汚水処理関係者を招き、日本における生活排水処理に関する政策をはじめ浄化槽の処理技術・製品及び維持管理についての紹介が日本の官民講師陣より行われました。

当社は、インドとベトナムのセミナーに、浄化槽維持管理事業者の立場で講師として参加し、琵琶湖の水質改善や震災時に果たした浄化槽の役割や維持管理技術などを織り交ぜながら、浄化槽維持管理の重要性について発表しました。セミナー参加者からは、浄化槽導入に向けた法律や制度設計、コスト面など前向きなコメントや質問も多くあり、浄化槽の技術的な理解や導入に向けた周知が一步進んだことを実感しました。





インターンシップ

インドから2名のインターン生を迎えました 2018.5.15~2018.7.17

本年も2名のインターン研修生が来日し、約2カ月にわたって日吉でさまざまな研修を受けました。

ラッチャナ (Ramamurthy Racchana) さんは英語と日本語を得意とし、このインターンプログラムに興味を持ち応募し、シュルチイ (Agarwal Shurti) さんは環境化学工学分野への興味から応募しました。

100年企業をめざす日吉では、将来の海外事業展開に不可欠な人材育成やネットワークの構築と国際貢献の一環として、2006年よりインド

からのインターン研修生受け入れを行っています。

今年は過去最多となる252人の応募から選ばれた2名が当社で食品、水質の一般項目の分析研修や生活排水処理、廃棄物収集など日吉が行う環境サービスを体験しました。また、毎年開催している京都大学との情報交換会では、日本の学生らと交流し、お互いの研究について活発な議論をしました。

日本は私にとって夢の国、日吉に到着した瞬間、きれいな環境や安全対策に惹きつけられ、さらに最新の技術を使ったさまざまな環境サービスを学ぶことができ幸運でした。この経験を活かし、環境工学修士号の取得をめざしてこれからも努力します。日吉が私の夢を実現させるための素晴らしい機会を与えてくれました。

日本は素晴らしい国だと聞いていましたが、日吉の研修を通じてそれを確かめることができました。まず、敬意を忘れないことや挨拶に感心しました。日吉が準備してくれた研修はもちろんのこと、コミュニケーションや宿泊など、与えていただいたすべてに満足しています。帰国はこの学びをインドの環境問題の解決につなげられるよう実行したいと思います。



ラマムルティ ラッチャナ
SSN College of Engineering 3回生
化学工学専攻 (チェンナイ在住)



アガルワル シュルチイ
IIT Hyderabad 2回生
化学工学専攻 (マドヤ・パラデシュ在住)



日吉インド人社員が6カ月の研修を終えてインドに帰国 2018.2.7

(財)海外産業人材育成協会 (AOTS) の事業を活用し、日吉インド人のチビ・バラット社員が日吉で研修を受けました。2017年6月28日に来日し、AOTSでの6週間の日本語研修の後、当社で8月9日から2018年2月8日までの6カ月間、主に排水処理技術を中心に研修を実施しました。

帰国後は、日吉インド人の生活排水処理施設維持管理事業の技術者として活躍してくれることを期待しています。



パートナーであるベトナムの研究機関から研修生が来日 2018.1.12~2018.1.17



本年1月、2016年に当社とのパートナーシップをスタートさせたベトナムの研究機関IESH^{※1}から1名、IET^{※2}から2名の研修生が来日しました。3人はベトナムでラボ責任者として働いており、当社での研修目的はLIMS^{※3}およびISO17025を介したラボシステムの管理方法や、日本で使用されている分析法に関する知識を広げることでした。

1月12日から17日までの6日間の研修では主にVOC^{※4}、重金属、排ガス中の無機成分、固形廃棄物分析のためのサンプリング及び試料前処理を行いました。



研修は大変興味深く、私のラボでは理解できなかった問題などを深く理解することができました。また、天ぷらや寿司など日本食も美味しくいただきました。いつか日本に戻ってきたいと思います。

IET Nguyen Thanh Thao

LIMSの操作やISO17025、また排ガスや固形廃棄物中の重金属分析の前処理について学びました。新技術の学修や知識拡大の機会を与えていただいた日吉に感謝しています。

IET Pham Thi Thuy Nga

研修は6日間だけでしたが、たくさんの知識や仕事の仕方を日吉から学びました。将来、私の知識を広めるためにまた日吉を訪問し、学んだことを現在の仕事に活かしたいと思います。

IESH Nguyen Thi Thuy

※1 IESH : (Institute of Environmental Science and Public Health) 環境科学・公衆衛生研究所
※2 IET : (Institute of Environmental Technology) 環境技術研究所

※3 : LIMS(Laboratory Information Management System)実験室内の試験業務を統合管理するシステム
※4 : VOC (Volatile Organic Compounds) 揮発性有機化合物

1日限定の職場体験「1Dayインターンシップ」が活発化

雇用における売り手市場が進む昨今、学生のインターンシップ参加が当たり前になりつつあります。特に1Dayインターンシップや会社見学の活発化は顕著で、当社への受け入れ依頼も増加してきました。1日という限られた時間ですが、社会における当社の役割や将来的な展望、独自の分析技術、普段の仕事の内容や雰囲気などを体験してもらっています。



長浜バイオ大学 バイオサイエンス学部/バイオサイエンス学科

水道施設の見学を通じ、地域に対する配慮や責任感と使命を持って仕事に取り組んでいる現場の皆さんの姿勢を目の当たりにすることができました。特に残留塩素濃度など水道にとって重要な計測結果にゆらぎがあった場合、安定するまで繰り返し測っている姿はとてまかつよく映りました。

岡山理科大学大学院 理学研究科

飲料水や水道水などの検査を見学させていただき、「何気なく飲んでいる水なのに、裏ではこんなに沢山の検査をしているのか」と驚きました。また、楽しそうに仕事をしている検査室の方々の姿も印象に残りました。私もこのような職場環境で仕事をしたいです。とても貴重な時間をありがとうございました。



生物化学的測定研究会 学術集会 2018.6.8

当社では数年前よりケイラックス・アッセイ[※]の国際標準化取得に向け経済産業省等に働きかけを行ってまいりました。それが採択され、今年度から「生物資源を用いたダイオキシン類化合物の検出方法に関する国際標準化」というテーマで3年間の事業を進めることになり、(一社)産業環境管理協会が事務窓口となり、生物化学的測定研究会が技術的バックアップを行う体制で実施開始となりました。

これを機会に開催されたのが、「各種レポーター遺伝子アッセイ法の取り組み・応用」をテーマとした学術集会です。当社は、国際標準化に取り組むことになった経緯や意図、技術的課題、今後の進め方等を説明しました。

※ケイラックス・アッセイ：迅速で低廉にダイオキシン類の測定が出来る生物検定法

生物化学的測定研究会 第23回学術集会プログラム「各種レポーター遺伝子アッセイ法の取り組み・応用」

レポーター遺伝子アッセイは遺伝子の活性状態を目に見える形で“レポート”する方法であり、実用化されたものとして、ダイオキシン類検出系、内分泌かく乱物質検出系などが存在します。この学術集会では、大学や研究機関から本

に関する基礎研究、技術を活用した調査、応用研究に関して、また企業側から国際標準化活動ならびに新規検出技術開発に関して6名の講師が招待され、最新的话题を發表しました。

滋賀県信用保証協会で開催環境産業と活動について講演 2018.2.13

滋賀県信用保証協会が役職員を対象として行政、大学、企業などから講師を迎えての温暖化や低炭素、琵琶湖環境など環境マネジメントを学ぶ研修会を行い、当社からは社長 村田弘司が講師として登壇しました。



福井県人権啓発セミナー講演 2018.1.30

福井県が主催する、人権啓発セミナーの講師として総務課課長 大角浩子、在宅勤務者の総務課 西村亜智が登壇しました。「多様性で伸びる企業～ダイバーシティ経営100選企業からのヒント～」というテーマのもと、当社が女性や外国人の登用により生産性を向上し、事業拡大につなげたこと、また「四方よし(次世代よし)」の観点から施策に取り組んだことについて講演しました。



平成29年度健康経営セミナーin滋賀で講演 2018.2.7

精神的健康管理の必要性として、過去2回行ったストレスチェックと、その後の高ストレス者への対応についての実践、また現状の課題と今後に向けての対策について総務課 廣瀬史恵が講演しました。



「オートアナライザーシンポジウム」講演 2018.6.1

「土壤汚染対策法における自社の取り組みについて」という演題で、土壤分析におけるオートアナライザーの活用法の解説や、インドの環境問題の紹介について湘南分析センター 統括部長 市川泰之が講演しました。



社会貢献



近江八幡・安土・竜王の小学校にて「ごみ学習」を行い、環境意識を醸成 2018.5.24

今年で28年目となる、ゴミ収集車を用いた環境学習を地域の11校の小学4年児童を対象に行いました。これは、環境教育の一環として、ごみの収集・分別について学んでもらい、資源を大切にすることを学ぶ機会です。学んだ知識を家族や周囲の人にも伝えてもらうことで、ごみの分別や減量を意識してもらうことが目的です。

滋賀県に緊急自動車1台を寄贈 2018.1.19

当社が加盟する(一社)滋賀県下水道管路維持協会から滋賀県に緊急自動車(日産ADバン、赤色警光灯・サイレン装備)1台が寄贈されました。

下水道施設の日々の維持管理や台風等の自然災害への緊急対応に役立てて頂くために、協会の社会貢献活動の一環として行われたものです。



淡海フィランソロピーネット 第5回チャリティーバザーに参加 2018.1.5~2018.1.7

チャリティーバザー「カレンダー」・「手帳」市では、新入社員と内定者全10名が参加しました。滋賀県内の小学校で環境・福祉学習を推進するため、集められた収益金で、「ペットボトルキャップリサイクルプランター」と「栽培キット」を購入し寄贈しました。



八幡小学校へ「パワー・ムーバー」寄贈 2018.1.17

阪神淡路大震災から23年目の1月17日、八幡小学校へ給電機「パワー・ムーバー[※]」の寄贈を行いました。予期せぬ災害時、地域の皆さんにご利用いただくことを目的としています。

※電気自動車・プラグインハイブリット車などの電力を取り出して、家電機器が使用できるよう変換する可搬型給電機





地域未来牽引企業

経済産業省「地域未来牽引企業」に選定 2017.12.22

「地域未来牽引企業」は、地域内外の取引実態や雇用・売上高を勘案し、地域経済への影響力が大きく、成長性が見込まれるとともに、地域経済のバリューチェーンの中心的な担い手、および担い手候補である企業としての評価が選定の基準となっています。

今回は、全国で2148社が選定され、選定された企業には大枠で4項目の支援施策が準備されています。当社も滋賀県、自治体との連携を通じ、本選定を有効活用し、事業性の高い地域産業や良質な雇用・賃金が、地域に投資・人材を更に呼び込む好循環の形成となるよう考えています。



ヒト(人材)

成長分野に進出するため事業化戦略や販路開拓のアドバイスを受けられ、本選定企業というアピールにより新たな雇用創出も見込めます。



モノ(設備投資)

先進的な事業に必要な設備投資減税。法人税等負担軽減。(対象：機械装置・器具備品・建物・付属設備・構築物)



規制緩和

農地転用許可、市街化調整区域開発許可。工場立地法に基づく環境施設面積率、緑地面積率の緩和。



その他

特許料、地域団体商標の登録料等減免。固定資産税等減免。地域創生推進交付金を活用した支援制度の創設を実施する自治体には国が支援。

中小企業庁「はばたく中小企業300社」に選定 2018.3.26

「はばたく中小企業・小規模事業者300社」に選定されました。この賞は、ITサービス導入や経営資源の有効活用等による生産性向上、積極的な海外展開やインバウンド需要の取込み、多様な人材活用や円滑な事業承継など、様々な分野で活躍している中小企業・小規模事業者から中小企業庁が選定した300社に贈られる賞です。

革新的なサービス創造、積極的な海外展開、多彩な人材活用などの取り組み等が評価されたようです。



経済産業省「高度外国人材活躍企業50社」に選定 2018.5.25

「高度外国人材活躍企業50社」とは、高度な専門知識や技術を有する外国人材を積極的に採用し、事業の海外展開などで成果を得ている先進企業50社に与えられるものです。

海外インターンシップ生の受け入れ実績はもとより、インドでのグループ会社設立や現地と日本の時差利用による分業体制の構築など、当社の「新たなビジネスモデル構築」が評価され滋賀県企業では唯一選定されました。

平成30年度計量関係功労者表彰 2018.6.22

(一社) 滋賀県計量協会の計量関係功労者表彰式が開催され、環境計量証明における長年の功績が評価され技術部部長 横山幹朗、ダイオキシン係係長 中村昌文、食品衛生係主任 北川宏子、環境分析係主任 藤野潤子の4名が受賞しました。



環境保全協会より環境保全功労者表彰 2018.5.24

平成30年度(公社) 滋賀県環境保全協会総会において、品質保証室 室長 山本司が環境保全功労者として受賞しました。



平成30年度滋賀県循環社会推進課 関係事業功労者知事表彰 2018.5.24

三日月大造滋賀県知事より、専務取締役 鈴木正が平成30年度滋賀県循環社会推進課関係事業功労者知事表彰を受賞しました。



環境測定分析功労者表彰 2018.1.10

(一社) 日本環境測定分析協会より、営業部部長 富江利博と技術部ダイオキシン係係長 中村昌文が平成29年度環境測定分析功労者として受賞しました。



琵琶湖博物館より感謝状 2018.4.18

第1期に引き続き、第2期琵琶湖博物館のリニューアルへの支援に対し、感謝状と記念品を賜りました。



美しい湖国をつくる会より感謝状 2018.5.28

環境保全に関する熱心な取り組みが評価され、美しい湖国をつくる会(滋賀県琵琶湖環境部循環社会推進課)より感謝状を賜りました。



- 用紙：琵琶湖の環境保全活動を支援する寄付金付びわ湖環境ペーパー 適切に管理された森林の木材を利用した FSC® 認証用紙
- インキ：大豆油インキを含む植物油インキ
- 印刷：有害な廃液を排出しない水なし印刷
- 製造、廃棄に発生する CO₂を滋賀県内の排出削減事業者のクレジットによりカーボンオフセット済
- CO₂排出量：278kg/3,000部